

令和7年度 島根県立大学 看護栄養学部 看護学科
【学校推薦型選抜(専門学校・総合学科枠)】

小論文試験問題

(試験時間 90 分)

注 意 事 項

- ① 開始合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
- ② 受験番号、氏名を問題用紙、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- ③ 開始の合図があった後、問題用紙を確認し、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、直ちに申し出てください。
- ④ 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
なお、解答は横書きで記入してください。
- ⑤ 試験時間中の退室はできません。
- ⑥ 問題用紙、解答用紙は、試験終了後回収します。

受 験 番 号	氏 名

問題

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

バイアスについて考える前に、私たちが何気なく使っている「普通」という言葉について考えてみます。

そもそもバイアス（偏り）があるということは、大前提として、基準になるものがあり、そこから外れているということを指します。

では、その基準になるものとは何かといえば、それがよく「普通」といわれているものでしょう。でも、その「普通」が世の中できちんと定義されて、皆に共有されているかという点、そんなことはありません。

たとえば、「母親なら、普通はこうする」とか「普通、女は男を立てるものだ」といった言葉。そういうことを言って他人を責める人もいますが、それはその人にとっての普通の感覚であって、法律やルールで定められたものではありません。

私たちは「自分が考える普通」からズレている言動や現象を見たときに「偏り」や「思い込み」などという言葉を使いたくなりますが、それは、それぞれの人の立っている場所が異なるだけなのです。

当然のことですが、その人の主観によって決められた普通からは、その人以外の人には多かれ少なかれズレていて、完全に一致する人などいません。そして人は必ず自分の感覚を普通の基準にするので、自分だけはズレていないように感じます。

私たちは皆それぞれがそれぞれにズレているために、自分のズレには気づきにくくなります。ですから、何がズレているのか、どのくらい偏っているのかを知るのは、そう簡単な話ではないのです。

（中略）

そこで参照されるのが、群れの基準であり、集団の基準です。

多くの人は、成長期に家庭や学校、部活、習いごとなどの集団で過ごしていく中で、「自分の基準は絶対ではないかもしれない」とか「自分の基準と、周りの基準が

違うこともある」という現実になんげつつ気づいていきます。

そして、自分と周りの基準が違ふときに、自分の考えを押し通して周りに合わせなかったとしたら、いったいどんなことが起きるでしょうか。

もちろんケースバイケースですが、先生や親から怒られたり、恥ずかしい思いをしたり、友だちから責められたり、孤立したりする可能性が高くなります。

引用：中野信子、「バイアス社会」を生き延びる，小学館，2023，pp. 16-18.

問1

著者が述べる「普通」とは何か，課題文から読み取り 35 字以内で述べなさい。

問2

課題文を 200 字以内で要約しなさい。

問3

著者の主張を踏まえて，ズレを意識した周囲とのかかわりについて，あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。